

# 猿橋勝子先生を偲んで



去る九月廿九日、新聞記事で本会名譽会員猿橋勝子先生の計報を知りました。折しも、打ち上げられていた月探査機「かぐや」から送られてきた地球の画像と同じ紙面に掲載されていましたので、今生でのお仕事を充分はたされ、幽玄の世界へ静かに旅立たれた先生を偲びました。

学協会の名誉会員や役職を努め、学術賞や功労賞を受けておられます。さらに昭和五十六年には日本学術会議の初の女性会員に選ばれました。

また、先生は研究面のみならず、つねに世界の動向に注目しておられ、女性科学者などについて思いを回らし、たびたび国際婦人科学者・技術者会議に

の帝国女子理学専門学校（現東邦大学理学部）の第一回生として物理学を卒業されました。同年、中央気象台（現気象庁）に勤務され、昭和五十五年

出席され討論に參加しておられました。これらの熱い思いが先生の退職時の「女性科学者に明るい未来をの会」・学術賞(猿橋賞)の設立となつたものと思ひます。受賞者はその後も研鑽を積まれ学会をリードし社会的にも評価されていることは周知のとおりです。

東邦大学理学部鶴風会の理事長になられましたのは昭和四十二年、同窓会は敗戦後の混乱をまだ抜けきらず正常の形にはなっていない頃でした。それから廿五年間、会の組織を固めその運営に尽力され、平成四年退任されるまで自他共にきびしい方でしたが、いろいろな面で私達後輩を指導してくださいました。

最後に先生の印象に残る言葉の一部を記載させていただき

ます。「大学の発展は同窓生の社会生活の向上にファイードバッケされる。卒業生が社会で充分活動するようになれば、大学の評価はおのずと次第に高くなつてゆくでしょう。同窓会が今後も良識の府として東邦大学理学部と共に発展するのを期待しています。同窓会の世話役として多少なりとも廿五年間捧げることができましたことを誇りとしています。」「女性科学者に明るい未来をの会」によつて十月廿一日に「偲ぶ会」が学士会館で催されました。したが、そこには皇后陛下から花束が飾られておりました。長年にわたる先生の暖かいご指導に感謝しご冥福をお祈り申しあげます。

瀬賀 節(昭25・物象)